

自分の命は自分で守る 家族の命は家族で守る

1月15日～21日は防災とボランティア週間

一昨年の東日本大震災や平成7年の阪神・淡路大震災に代表されるように、近年、大きな地震が繰り返し発生しています。地震はいつ、どこで発生するか分かりませんが、日頃からの備えで自分の命や家族の命を守ることができます。毎年1月17日は「防災とボランティアの日」、15日～21日は「防災とボランティア週間」です。この機会に、身の回りの安全や地震が発生した場合の行動について確認しておきましょう。

地震発生時の行動パターン

地震が発生	
<ul style="list-style-type: none"> ◇まずは落ち着いて自分の身を守る ◇すばやく火の始末 ◇ドアや窓を開けて逃げ道を確認 	
緊急地震速報を活用して身を守ろう	
<p>最大震度5弱以上が推定される場合、テレビやラジオ、まいづるメール配信サービス、緊急速報メールなどを通して緊急地震速報が発表されます。発表から強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。その短い間に慌てず自分や家族の身を守ることを優先に行動しましょう。 ※震源に近い地域では、緊急地震速報が揺れに間に合わない場合があります。</p>	
1～2分	
<ul style="list-style-type: none"> ◇火元を確認し、出火していたら初期消火 ◇家族の安全を確認 ◇非常時持出品を手元に用意する 	
3分	
<ul style="list-style-type: none"> ◇隣近所の安否を確認 ◇余震に注意 	
5分	
<ul style="list-style-type: none"> ◇ラジオなどで正しい情報を確認 ◇家屋倒壊などの恐れがあればすぐ避難 	
5～10分	
<ul style="list-style-type: none"> ◇さらに出火防止を 	
10分～数時間	
<ul style="list-style-type: none"> ◇消火・救出活動 	
《避難するときは》	
<ul style="list-style-type: none"> ◇慌てず落ち着いて ◇車ではなくできるだけ徒歩で ◇割れたガラスなどを踏まないよう靴を履く ◇落下物に注意 	

東日本大震災復興を支援 石巻市に職員を派遣しています

市では、東日本大震災の被災地復興支援として、宮城県石巻市に職員を派遣しています。現地の様子を本市派遣職員の上田健人さんが紹介します。

本市派遣職員 上田健人



石巻市は、宮城県東部に位置する人口約15万人、面積55・78平方キロの都市です。沿岸部は津波によって壊滅的な被害を受け、北上川を遡った海水は市街地の全域に及びました。



▲復旧方法について協議する上田さん（左）



▲石巻市の様子（12月4日）

石巻市の下水道建設課の半数が、全国の自治体から派遣されている職員です。震災の影響のため、工事を施工できる業者も少なく、下水道の被害総額625億円のうち、4%程度の工事に着手できた状況です。

道路や河川などの都市基盤整備、暮らしを取り戻す住環境整備、生活再建の基盤である産業再生など、まだまだ多くの課題が残っています。東北の震災復興に少しでも役立てるよう頑張りたいと思います。

《職員課》

ユネスコ世界記憶遺産登録への取り組みをPR 引揚記念館のロゴマークを募集します



▲引揚記念館の外観

引揚記念館では、引き揚げの史実や平和の尊さについて戦争を知らない世代にも親しみやすく伝えていくため、同館のロゴマークを募集します。採用された作品は、ユネスコ世界記憶遺産登録を目指す取り組みのPRのほか、パンフレットやホームページなどで広く活用していきます。

【応募規定】

- ◆同館がイメージでき、親しみやすいもの
- ◆未発表の自作作品で、著作権や商標、その他第三者の権利を侵害しないもの
- ◆カラー、モノクロ問わずデザインが表現できているもの
- ◆作品の著作権、使用権は同館に帰属
- ◆採用作品は一部修正・変更する場合あり



▲引き揚げやシベリア抑留などに関する資料約1,000点を常設展示

事前の備え

◆家族との連絡方法、集合場所の確認

普段から大人も子どもも、どこにいても、まずは、自分の身を守る方法を学んでおきましょう。

また、日頃から家族で話し合っ、避難場所を確認し、連絡方法や集合場所を決めておきましょう。

◆非常時持出品、備蓄品の用意

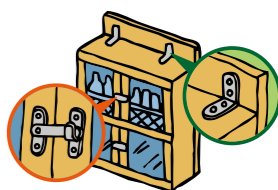
食糧、水、ラジオ、懐中電灯、常備薬、衣類、タオルなど3日分をリュックサックなどに入れておきましょう。
※食糧は、冷蔵庫などにあるものも含めて3日分を持って行く。

◆家の内外の安全対策

阪神・淡路大震災で亡くなられた人の約8割が、家屋の倒壊や家具の転倒による圧迫死や窒息死といわれています。日頃からの点検を心がけましょう。

◆家の中

◆転倒防止金具や扉・引き出し開放防止金具などで家具類の転倒・落下を防止。



◆窓ガラスなどに飛散防止フィルムを貼る。

◆通路や出入り口には物を置かない。

◆家の外

◆アンテナや屋根瓦、ブロック塀、門柱などを点検・補強。ひび割れなどは修理を。

◆昭和56年以前に建てられた家屋は耐震診断と補強を。



▼防災に関するお問い合わせは、危機管理・防災課（☎66・1089）へ。

【応募方法】住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、電子メールアドレス、デザイナーのコンセプトと作品の画像データ（JPEGかGIF形式で3MBまで）を電子メール(hikiage@post.city.maizuru.koto.jp)で同館へ。手書きの作品でデータ化が難しい場合は、郵送（〒625-0133 市内字平1584）も可。2月6日(水)必着。作品は返却しません。

【今後の予定】

- ◆2月中旬…審査を行い数点を選考
- ◆3月初旬～中旬…数点の中から市民投票により採用作品1点を選考

【その他】採用作品には賞金3万円を進呈

▼詳しくは、引揚記念館（☎68・0836）へ。